

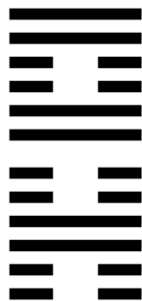
周易・卦辞・爻辞

書き下し文 研鑽ノート用



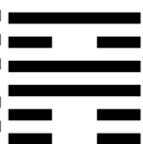


61 中孚  
ちゆうふ



小過  
しょうか  
62

55 豊  
ほう



旅  
りよ  
56

57 巽  
そん



63 既濟  
きせい



未濟  
みせい  
64

59 渙  
かん



節  
せつ  
60

49 革  
かく



鼎  
てい  
50

51 震  
しん



艮  
ごん  
52



歸妹  
きまい

43 夬  
かい

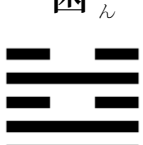


姤  
こう  
44

45 萃  
すい



升  
しょう  
46



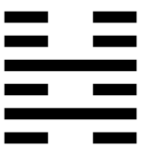
井  
せい

37 家人  
かじん



睽  
けい  
38

39 蹇  
けん



解  
かい  
40

41 損  
そん



益  
えき  
42

31 咸  
かん



恒  
こう  
32

33 遯  
とん



大壯  
だいそう  
34

35 晋  
しん



明夷  
めい

29 坎  
かん



離  
り  
30

25 无妄  
むぼう



大畜  
だいちく  
26

27 頤  
い



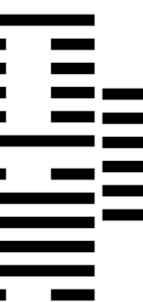
大過  
たいか  
28

19 臨  
りん



觀  
かん  
20

21 噬嗑  
ぜいごく



賁  
ひ  
22

23 剝  
はく



復  
ふく  
24

13 同人  
どうじん



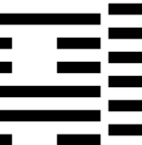
大有  
だいう  
14

15 謙  
けん



豫  
よ  
16

17 隨  
ずい



蠱  
こ  
18

7 師  
し



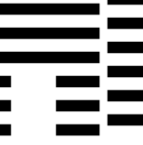
比  
ひ  
8

9 小畜  
しょうちく



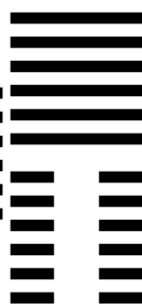
履  
り  
10

11 泰  
たい



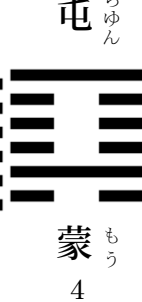
否  
ひ  
12

1 乾  
けん



坤  
こん  
2

3 屯  
ちゆん



蒙  
もう  
4

5 需  
じゆ



訟  
しょう  
6

1 乾為天



乾、元亨、利貞。

乾は元いに亨る、貞しきに利あり。

初九、潜龍。勿用。

初九は、潜竜なり。用うるなかれ。

九二、見龍在田、利見大人。

九二は、見竜田にあり、大人を見るに利あり。

九三、君子終日乾乾、夕惕若。厲无咎。

九三は、君子終日乾乾、夕べまで惕若たり。厲けれども咎なし。

し。

九四、或躍在淵。无咎。

九四は、或いは躍りて淵にあり。咎なし。

九五、飛龍在天、利見大人。

九五は、飛竜天にあり、大人を見るに利あり。

上九、亢龍。有悔。

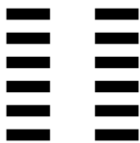
上九は、亢竜なり。悔あり。

用九、見群龍无首。吉。

用九は、群竜の首なきを見る。吉なり。



2 坤為地



坤、元亨。利牝馬之貞。君子有攸往。先迷後得主。利。西南得朋、東北喪朋。安貞吉。

坤は元いに亨る。牝馬の貞に利あり。君子往くところあり。先んずれば迷い、後るれば主を得て、利あり。西南に朋を得、東北に朋を喪う。貞に安んずれば吉なり。

初六、履霜、堅冰至。

初六は、霜を履んで、堅冰至る。

六二、直方大。不習无不利。

六二は、直方大なり。習わざれども利あらざるなし。

六三、含章可貞。或従王事。无成有終。

六三は、章を含む、貞にすべし。或いは王事に従う。成すことな

くして終ることあり。

六四、括囊。无咎、无誉。

六四は、囊を括る。咎もなく、誉もなし。

六五、黄裳、元吉。

六五は、黄裳、元いに吉なり。

上六、龍戰于野、其血玄黄。

上六は、竜野に戦う、その血玄黄なり。

用六、利永貞。

用六は、永貞に利あり。

3 水雷屯 すいらいちゆん



屯、元亨利貞。勿用有攸往。利建侯。

屯は元ちゆんいに亨とおる、貞ただしきに利りあり。用もつて往ゆくところあるなかれ。侯きみを建たつるに利りあり。

初九、磐桓。利居貞。利建侯。

初九は、磐桓はんかんす。貞ていに居おるに利りあり。侯きみを建たつるに利りあり。

六二、屯如。遭如。乘馬班如。匪寇婚媾。女子貞不字。十年乃字。

六二は、屯りくじ如ちゆんじよたり。遭てんじよ如てんじよたり。乘馬班如じようばはんじよたり。寇あだするにあらず、婚媾こんこうせんとす。女子貞じよしていにして字じせず。十年じゅうねんにして乃すなわち字じす。

六三、即鹿无虞。惟入于林中。君子幾不知舍。往吝。

六三は、鹿しかに即つくに虞ぐなし。ただ林中りんちゆうに入る。君子くんしほとんど舍すつるに如しかず。往ゆけば吝りんなり。

六四、乘馬班如。求婚媾。往吉。无不利。

六四は、乘馬班如じようばはんじよたり。婚媾こんこうを求もとむ。往ゆけば吉きつ、利りあらざるなし。

九五、屯其膏。小貞吉。大貞凶。

九五は、その膏あぶらを屯ちゆんす。小貞しょうていは吉きつなり。大貞だいていは凶きようなり。

上六、乘馬班如。泣血漣如。

上六は、乘馬班如じようばはんじよたり、泣血漣如きゆうけつれんじよたり。

4 山水蒙 さんすいもう



蒙、亨。匪我求童蒙。童蒙〔來〕求我。初筮告。再三瀆。瀆則不告。利貞。

蒙は亨る。我童蒙を求むるにあらず。童蒙来りて我に求む。初筮は告ぐ。再三すれば瀆る。瀆るれば告げず。貞しきに利あり。

初六、発蒙。利用刑人、用説桎梏、以往吝。

初六は、蒙を発く。用て人を刑し、用て桎梏を説くに利あり。以て往けば吝なり。

九二、包蒙吉。納婦吉。子克家。

九二は、蒙を包ぬ、吉なり。婦を納るるに、吉なり。子、家を克くす。

六三、勿用取女。見金夫、无有躬。无不利。

六三は、女を取るに用うるなかれ。金夫を見て、躬を有たず。利するところなし。

六四、困蒙、吝。

六四は、蒙に困しむ、吝なり。

六五、童蒙、吉。

六五は、童蒙、吉なり。

上九、擊蒙。不利為寇、利禦寇。

上九は、蒙を撃つ。寇をなすに利あらず、寇を禦ぐに利あり。

5 水天需 すいてんじゆ



需有孚、光亨、貞吉。利涉大川。

じゆ まこと

おほ

とお

てい

きつ

たいせん

わた

り

需は孚あれば、光いに亨る、貞なれば吉なり。大川を渉るに利あり。

初九、需于郊。利用恒。无咎。

しよきゆう

こう ま

つね

もち

り

とが

初九は、郊に需つ。恒を用うるに利あり。咎なし。

九二、需于沙。小有言。終吉。

きゆうじ

すな ま

すこ

ものい

つい

きつ

九二は、沙に需つ。小しく言うことあり。終に吉なり。

九三、需于泥。致寇至。

きゆうさん

ひじりこ

ま

あだ

いた

いた

九三は、泥に需つ。寇の至るを致す。

六四、需于血。出自穴。

りくし

ち

ま

あな

い

六四は、血に需つ。穴より出ず。

九五、需于酒食。貞吉。

きゆうご

しゆし

ま

てい

きつ

九五は、酒食に需つ。貞なれば吉なり。

上六、入于穴。有不速之客三人來。敬之終吉。

じようりく

あな

い

まね

きやくさんにん

きた

つつし

上六は、穴に入る。速かざるの客三人あつて来る。これを敬むと

きは終に吉なり。

つい

きつ





6 天水訟



訟、有孚窒。惕中吉。終凶。利見大人。不利涉大川。

訟は孚ありて窒がる。惕れて中すれば吉なり。終えんとすれば凶なり。大人を見るに利あり。大川を渉るに利あらず。

初六、不永所事。小有言、終吉。

初六は、事とするとところを永くせず。小しく言うことあれども、終に吉なり。

九二、不克訟。歸而逋。其邑人三百戶、无眚。

九二は、訟に克たず、歸りて逋る。その邑人三百戸にして、眚なし。

六三、食旧徳。貞厲終吉。或従王事无成。

六三は、旧徳に食む。貞なれば厲けれども終に吉なり。或いは王事に従えば成すなし。

九四、不克訟。復即命。渝安貞、吉。

九四は、訟に克たず。復つて命に即き、渝りて、貞に安んずれば、吉なり。

九五、訟元吉。

九五は、訟え元いに吉なり。

上九、或錫之鞶帶。終朝三褫之。

上九は、或いはこれに鞶帯を錫う。終朝に三たびこれを褫わん。



7 地水師 ちすいし



師貞。丈人、吉无咎。

師は貞。丈人なれば吉にして、咎なし。

初六、師出以律。否臧凶。

初六は、師出ずるに律を以てす。臧からざれば凶なり。

九二、在師中。吉无咎。王三錫命。

九二は、師中にあり。吉にして咎なし。王三たび命を錫う。

六三、師或輿尸。凶。

六三は、師或いは尸を輿う。凶なり。

六四、師左次、无咎。

六四は、師左りに次る、咎なし。

六五、田有禽。利執言。无咎。长子帥師。弟子輿尸。貞凶。

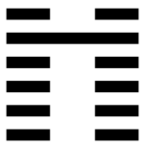
六五は、田して禽あり。執言に利あり。咎なし。長子師を帥ゆ。

弟子尸を輿う。貞なるも凶なり。

上六、大君有命。开国承家。小人勿用。

上六は、大君命あり。国を開き家を承く。小人は用うるなかれ。

8 水地比



比吉。原筮元永貞、无咎。不寧方來。後夫凶。

ひ きつ げんぜい げんえいてい

比は吉。原筮するに元永貞にして、咎なし。寧からざるものまさに

とが やす

来る。後夫は凶なり。

きた こうふ きよう

初六、有孚比之、无咎。有孚盈缶、終來有他吉。

しよりく

まこと

ひ

とが

まこと

ほとぎ

み

初六は、孚ありてこれに比す、咎なし。孚ありて缶に盈つれば、

つい きた た きつ

終に來りて他の吉あり。

六二、比之自内。貞吉。

りくじ

ひ

うち

てい

きつ

六二は、これに比すること内よりす。貞にして吉なり。

六三、比之匪人。

りくさん

ひ

ひと

六三は、これに比する、人にあらず。

六四、外比之、貞吉。

りくし

ほか

ひ

ていきつ

六四は、外これに比す、貞吉。

九五、顯比。王用三驅失前禽。邑人不誠。吉。

きゆうご

ひ

あき

おうも

さんく

ぜんきん

しつ

ゆうじんいまし

九五は、比を顯らかにす。王用つて三驅して前禽を失す。邑人誠

めず。吉なり。

きつ

上六、比之无首、凶。

じやうろく

ひ

しゆ

きよう

上六は、これに比する、首たることなし、凶なり。



9 風天小畜



小畜亨。密雲不雨，自我西郊。

しょうちゆう とお

みつうん

あめ

せいこう

小畜は亨る。密雲して雨ふらず、わが西郊よりす。

初九、復自道。何其咎、吉。

しょきゆう

かえ

みち

なん

とが

きつ

初九は、復ること道よりす。何ぞそれ咎あらん、吉なり。

九二、牽復。吉。

きゆうじ

ひ

かえ

きつ

九二は、牽いて復る。吉なり。

九三、輿説輻。夫妻反目。

きゆうさん

くるまふく

と

ふさいめ

そば

九三は、輿輻を説く。夫妻目を反む。

六四、有孚。血去惕出。无咎。

りくし

まこと

いたみさ

おそれい

とが

六四は、孚あり。血去り惕出ず。咎なし。

九五、有孚攀如。富以其隣。

きゆうご

まこと

れんじよ

とみ

となり

とも

九五は、孚あり攀如たり。富その隣と以にす。

上九、既雨既処。尚徳戴。婦貞厲。月幾望。君子征凶。

じようきゆう

すで

あめ

すで

お

とく

たつと

み

ふてい

上九は、既に雨ふり既に処る。徳を尚んで戴つ。婦貞なれども

厲し。月望に幾し。君子征けば凶なり。

あやう

つきぼう

ちか

くんしゆ

きよう

10 天沢履 てんたくり



履虎尾。不咥人、亨。

とら お ふ ひと くらわ ず、 とお  
虎の尾を履む。人を咥わず、亨る。

初九、素履。往无咎。

しよきゆう つね ふ なが  
初九は、素に履む。往けば咎なし。

九二、履道坦坦。幽人贞吉。

きゆうじ みち ふ たんたん ゆうじん てい きつ  
九二は、道を履む坦坦たり。幽人なれば貞にして吉なり。

六三、眇能視。跛能履。履虎尾。咥人。凶。武人为于大君。

りくさん すがめ み あしなえ ふ とら お ふ ひと くら  
六三は、眇にして視、跛にして履む。虎の尾を履む。人を咥う。

きよう ぶじんたいくん  
凶なり。武人大君となる。

九四、履虎尾。愬愬終吉。

きゆうし とら お ふ さくさく きつ  
九四は、虎の尾を履む。愬愬ついに吉なり。

九五、夬履。貞厲。

きゆうご さだ ふ てい あやう  
九五は、夬めて履む。貞なれども厲し。

上九、視履考祥。其旋元吉。

じようきゆう ふ み しよう な おお きつ  
上九は、履むを視て祥を考す。それ旋るときは元いに吉なり。

11 地天泰



泰、小往大來。吉亨。

泰は小往き大來る。吉にして亨る。

初九、拔茅茹。以其彙。征吉。

初九は、茅を抜くに茹たり、その彙と以にす。征きて吉なり。

九二、包荒<sup>◎</sup>、用馮河、不遐遺、朋亡<sup>◎</sup>。得尚于中行<sup>◎</sup>。

九二は、荒を包ね、馮河を用い、遐きを遺れず、朋亡う。中行に尚うを得たり。

九三、无平不陂、无往不復。艱貞无咎。勿恤其孚。于食有福。

九三は、平かにして陂かずということなく、往きて復らずということなし。艱貞なれば咎なし。恤うるなかれ、それ孚あり。食に于て福いあり。

六四、翩翩不富、以其隣。不戒以孚。

六四は、翩翩として富まず、その隣と以にす。戒めずして以て孚あり。

六五、帝乙歸妹。以祉元吉。

六五は、帝乙妹を歸がしむ。祉いを以てす元いに吉なり。

上六、城復于隍。勿用師。自邑告命。貞吝。

上六は、城隍に復る。師を用うるなかれ。邑より命を告ぐ。貞なれども吝なり。



12 天地否 てんちひ



否之匪人。不利君子貞。大往小來。

これ ふさ ひと あら 君子の貞に利あらず。大往き小來る。

初六、拔茅茹、以其彙。貞吉亨。

初六は、茅を抜くに茹たり、その彙と以にす。貞なるときは吉に

して亨る。

六二、包承。小人吉。大人否亨。

六二は、包承す。小人は吉。大人は否にして亨る。

六三、包羞。

六三は、包羞す。

九四、有命无咎。疇離祉。

九四は、命ありて咎なし。疇祉いに離く。

九五、休否。大人吉。其亡其亡、繫于苞桑。

九五は、否を休む。大人吉なり。それ亡びなん それ亡びなんとい

いて、苞桑に繫れり。

上九、傾否。先否後喜。

上九は、否を傾く。先には否がり後には喜ぶ。



13 天火同人  
てんかどうじん



同人于野。亨。利涉大川。利君子貞。

ひと とう ひと どう ひと おい とお たいせん わた り くにんし てい  
人に同ずるに野に于てす。亨る。大川を渉るに利あり。君子の貞に利あり。

初九、同人于門。无咎。

しよきゆう ひと おな もん おい とが  
初九は、人に同じうするに門に于てす。咎なし。

六二、同人于宗。吝。

りくじ ひと おな そう おい りん  
六二は、人に同じうするに宗に于てす。吝なり。

九三、伏戎于莽，升其高陵。三歲不興。

きゆうさん つわもの もう かく こうりよう のぼ さんさい おこ  
九三は、戎を莽に伏し、その高陵に升る。三歳まで興さず。

九四、乘其墉。弗克攻。吉。

きゆうし よう の せ あた きつ  
九四は、その墉に乗る。攻むる克わず。吉なり。

九五、同人先號咷而後笑。大師克相遇。

きゆうご ひと おな さき さけ よば のち わら だいしか  
九五は、人に同じうするに先には号び咷いて後には笑う。大師克ちて相い遇う。

上九、同人于郊。无悔。

じようきゆう ひと おな こう おい くい  
上九は、人に同じうするに郊に于てす。悔なし。



14 火天大有 かてんだいゆう



大有、元亨。

だいゆう おお 大有は元とおいに亨る。

初九、无交害。匪咎。艱則无咎。

しょきゆう 初九は、害がいに交わたることなし。咎とがあるにあらず。艱なやむときは咎とがなし。

九二、大車以戴。有攸往。无咎。

きゆうじ 九二は、大車だいしゃ以もつて戴のす。往ゆくところあり、咎とがなし。

九三、公用亨于天子。小人弗克。

きゆうさん 九三は、公用こうもつて天子てんしに亨きようす。小人しょうじんは克あたわず。

九四、匪其彭。无咎。

きゆうし 九四は、その彭さかんなるにあらず。咎とがなし。

六五、厥孚交如威如。吉。

りくご 六五は、その孚まことあつて交如こうじよたり威如いじよたるときは、吉きつなり。

上九、自天祐之。吉无不利。

じようきゆう 上九は、天てんよりこれを祐たすく。吉きつにして利りあらざるなし。

15 地山謙 ちざんけん



謙亨。君子有終。

けん けん とお くんし おわ

謙は亨る。君子は終りあり。

初六、謙謙君子。用涉大川、吉。

しよりく けんけん くんし もつ たいせん わた きつ

初六は、謙謙たる君子。用て大川を渉る、吉なり。

六二、鳴謙。貞吉。

りくじ めいけん てい きつ

六二は、鳴謙す。貞にして吉なり。

九三、勞謙君子。有終吉。

きゆうさん ろうけん くんし おわ きつ

九三は、勞謙たる君子。終りあり吉なり。

六四、无不利、撝謙。

りくし り けん ふる

六四は、利あらざるなし、謙を撝え。

六五、不富以其隣。利用侵伐。无不利。

りくご と となり とも もつ しんぱつ

六五は、富まず、その隣と以にす。用て侵伐するに利あり。

利あらざるなし。

上六、鳴謙。利用行師、征邑国。

じようりく めいけん もつ いんさ や ゆうこく せい

上六は、鳴謙す。用て師を行り、邑国を征するに利あり。

16 雷地豫 らいちよ



豫、利建侯行師。

豫は侯を建て師を行るに利あり。

初六、鳴豫。凶。

初六は、鳴豫す。凶なり。

六二、介于石。不终日。贞吉。

六二は、石に介たり。日を终えず。貞にして吉なり。

六三、盱豫。悔。遲有悔。

六三は、盱豫す。悔ゆ。遅ければ悔あり。

九四、由豫。大有得。勿疑。朋盍簪。

九四は、由豫す。大いに得るあり。疑うなかれ、朋盍簪る。

六五、貞疾。恒不死。

六五は、貞にして疾む。恒に死せず。

上六、冥豫。成有渝。无咎。

上六は、冥豫す。成るも渝ることあり。咎なし。

17 沢雷随 たぐらいずい



随、元亨利貞。无咎。

随は元ずいいにおおおおとほとほただただりに利あり。咎とがなし。

初九、官有渝。貞吉。出門交有功。

初九は、官しよきゆう有かんかわ渝かんかわることあり。貞ていなれば吉きつなり。門もんを出いでて交まじわるに

功あり。

六二、係小子、失丈夫。

六二は、係りくじ小子しょうしに係かかりて、丈夫じようふを失うしなう。

六三、係丈夫、失小子。随有求得。利居貞。

六三は、係りくさん丈夫じようふに係かかりて、小子しょうしを失うしなう。随したがつて求もとむるあれば得えん。

貞に居るに利あり。

九四、随有獲。貞凶。有孚在道、以明、何咎。

九四は、随したがつて獲うるあり。貞ていなれども凶きようなり。孚まことあつて道みちに在あり、

以て明あきらかなれば、何なんの咎とがあらん。

九五、孚于嘉。吉。

九五は、嘉かに孚まことあり、吉きつなり。

上六、拘係之。乃從維之。王用亨于西山。

上六は、これじようりくを拘とらえ係くくる。乃すなわち從したがつてこれつなを維つなぐ。王おうもつ用せいさんて西山

に亨きようす。



18 山風蠱 さんふうこ



蠱、元亨。利涉大川。先甲三日、後甲三日。

こ おお とお たいせん わた り こう さき みつか こう  
蠱は元いこに亨とおる。大川たいせんを渉わたるに利りあり。甲こうに先さきだつこと三日みつか、甲こうに後おくるること三日みつか。

初六、幹父之蠱。有子考无咎。厲終吉。

しよりく ちち こと かん こ ちちとが あやぶ つい きつ  
初六は、父ちちの蠱ことに幹かんたり。子こあれば考ちちとが咎あやぶなし。厲あやぶめば終ついに吉きつなり。

九二、幹母之蠱。不可貞。

きゆうじ はは こと かん てい  
九二は、母ははの蠱ことに幹かんたり。貞ていにすべからず。

九三、幹父之蠱。小有悔、无大咎。

きゆうさん ちち こと かん すこ くい だい とが  
九三は、父ちちの蠱ことに幹かんたり。小すこしく悔くいあり、大だいなる咎とがなし。

六四、裕父之蠱。往見吝。

りくし ちち こと かん ゆる ゆ りん み  
六四は、父ちちの蠱ことを裕ゆるうす。往ゆくときは吝りんを見るみ。

六五、幹父之蠱。用誉。

りくご ちち こと かん もつ ほま  
六五は、父ちちの蠱ことに幹かんたり、用もつて誉ほまれあり。

上九、不事王侯、高尚其事。

じようきゆう おうこう つか こと こうしよう  
上九は、王侯おうこうに事つかえず、その事ことを高尚こうしようにす。



19 地沢臨 ちたくりん



臨、元亨利貞。至于八月有凶。

りん おお とお ただ はちがつ いた きよう  
臨は元いりに亨りる、貞ただしきに利りあり。八月はちがつに至いたりて凶きようあり。

初九、咸臨。貞吉。

しよきゆう かん のぞ てい きつ  
初九は、咸かんじて臨のぞむ。貞ていにして吉きつなり。

九二、咸臨。吉无不利。

きゆうじ かん のぞ きつ  
九二は、咸かんじて臨のぞむ。吉きつにして利りあらざるなし。

六三、甘臨。无攸利。即憂之无咎。

りくさん あま のぞ り すで  
六三は、甘あまんじて臨のぞむ。利りするところなし。即すでにこれを憂うれうれば、咎とが

なし。

六四、至臨。无咎。

りくし いた のぞ とが  
六四は、至いたりて臨のぞむ。咎とがなし。

六五、知臨。大君之宜。吉。

りくご ち のぞ たいくん き きつ  
六五は、知ちあつて臨のぞむ、大君たいくんの宜ぎなり。吉きつなり。

上六、敦臨。吉无咎。

じようりく のぞ あつ きつ とが  
上六は、臨のぞむに敦あつし。吉きつにして咎とがなし。



20 風地観 ふうちかん



観、盥而不薦、有孚颙若。

かん かん せん まこと きようじやく

観は盥して薦せず、孚あつて颙若たり。

初六、童観。小人无咎。君子吝。

しよく とうかん しょうじん とが くんし りん

初六は、童観す。小人は咎なし。君子は吝なり。

六二、闚観。利女貞。

りくじ きかん じよてい り

六二は、闚観す。女貞に利あり。

六三、観我生進退。

りくさん わ せい み しんたい

六三は、我が生を觀て進退す。

六四、観国之光。利用賓于王。

りくし くに ひかり み もつ おう ひん り

六四は、国の光を觀る。用て王に賓たるに利あり。

九五、観我生。君子无咎。

きゆうご わ せい み くんし とが

九五は、我が生を觀る。君子なるときは咎なし。

上九、觀其生。君子无咎。

じようきゆう せい み くんし とが

上九は、その生を觀る。君子なるときは咎なし。

21 火雷噬嗑 からいぜいごう



噬嗑、亨。利用獄。

ぜいごう とお 獄ごくを用もちうるに利りあり。

初九、履校滅趾。无咎。

しよきゆう かせ は 初九は、校かせを履はいて趾あしを滅やぶる。咎とがなし。

六二、噬膚滅鼻。无咎。

りくじ はだえ か 六二は、膚はだえを噬かんで鼻はなを滅つくす。咎とがなし。

六三、噬腊肉、遇毒。小吝、无咎。

りくさん せきにく か 六三は、腊肉せきにくを噬かんで、毒どくに遇あえり。小すこしく吝りん、咎とがなし。

九四、噬乾肺、得金矢。利艱貞。吉。

きゆうし かんし か 九四は、乾肺かんしを噬かんで、金矢きんしを得えたり。艱貞かんていに利りあり。吉きつなり。

六五、噬乾肉、得黄金。贞厲、无咎。

りくご かんにく か 六五は、乾肉かんにくを噬かんで、黄金おうごんを得えたり。貞厲ていれいなるときは、咎とがなし。

上九、何校滅耳。凶。

じようきゆう かせ にな みみ やぶ 上九は、校かせを何にないて耳みみを滅やぶる。凶きようなり。





22 山火賁 さんかひ



賁、亨。小利有攸往。

賁は亨る。小しく往くところあるに利あり。

初九、賁其趾。舍車而徒。

初九は、その趾を賁る。車を捨てて徒よりす。

六二、賁其須。

六二は、その須を賁る。

九三、賁如濡如。永貞吉。

九三は、賁如たり濡如たり。永貞なれば吉なり。

六四、賁如皤如。白馬翰如。匪寇婚媾。

六四は、賁如たるもの皤如たり。白馬翰如たり。寇するにあらず婚媾

せんとす。

六五、賁子丘園。束帛芟芟。吝、終吉。

六五は、丘園に賁る。束帛芟芟たり。吝なるも、終には吉なり。

上九、白賁。无咎。

上九は、白く賁る。咎なし。

23 山地剥 さんちちはく



剥、不利有攸往。

剥は往くところあるに利あらず。

初六、剥牀以足。蔑貞凶。

初六は、牀を剥するに足に以ぶ。貞を蔑ろにす、凶なり。

六二、剥牀以弁。蔑貞凶。

六二は、牀を剥するに弁に以ぶ。貞を蔑ろにす、凶なり。

六三、剥之。无咎。

六三は、これを剥す。咎なし。

六四、剥牀以膚。凶。

六四は、牀を剥して膚に以ぶ。凶なり。

六五、貫魚、以宮人寵。无不利。

六五は、貫魚のごとく、宮人を以いて寵せらる。利あらざるなし。

上九、碩果不食。君子得輿、小人剥廬。

上九は、碩いなる果にして食われず。君子は輿を得、小人は廬を剥す。

24 地雷復 ちらいふく



復、亨。出入无疾。朋来无咎。反复其道。七日来复。利有攸往。

復ふくは亨とほる。出入しゅつにゅう疾やまいなし。朋とも来きたりて咎とがなし。その道みちを反復はんぷくす。七日なのかにして来きたり復ふくす。往ゆくところあるに利りあり。

初九、不遠復。无祇悔。元吉。

初九しよきゆうは、遠とほからずして復かえる。悔くゐに祇いたるなし。元おおいに吉きつなり。

六二、休復。吉。

六二りくじは、休よく復かえる。吉きつなり。

六三、復頻。厲无咎。

六三りくさんは、頻しばしば復かえる。厲あやうけれど咎とがなし。

六四、中行独復。

六四りくしは、中ちゆう行こう独ひとり復かえる。

六五、敦復。无悔。

六五りくごは、敦かえるに敦あつし。悔くゐなし。

上六、迷復。凶。有灾眚。用行师，终有大败。以其国君、凶。至于十年不克征。

上六じようりくは、復かえるに迷まよう。凶きようなり。災眚さいせいあり。用もつて師いくさを行やる、終ついに大敗たいはいすることあり。その国君こくくんに以およぶ、凶きようなり。十年じゆうねんに至いたるまで征せいするに克あたわず。



25 天雷无妄 てんらいむぼう



无妄、元亨利贞。其匪正有眚。不利有攸往。

むぼう 元 おお とお ただ せい あら わざわい

无妄は元いに亨る、貞しきに利あり。それ正に匪ざれば眚あり。

往くところあるに利あらず。

初九、无妄。往吉。

しよきゆう むぼう きつ

初九は、无妄なり。往けば吉なり。

六二、不耕穫、不菑畲、則利有攸往。

りくじ たがや え し よ む

六二は、耕さずして穫、菑せずして畲するとき、往くところある

に利あり。

六三、无妄之災。或繫之牛。行人之得、邑人之災。

りくさん むぼう さい ある うし つな こうじん え

六三は、无妄の災あり。或いはこれが牛を繫ぐ。行人の得ものは、

邑人の災い。

九四、可貞。无咎。

きゆうし てい とが

九四は、貞にすべし。咎なし。

九五、无妄之疾。勿藥有喜。

きゆうご むぼう やまい くすり よろこ

九五は、无妄の疾あり。薬することなくして喜びあり。

上九、无妄行、有眚。无攸利。

じようきゆう むぼう わざわい り

上九は、无妄にして行けば、眚あり。利するところなし。



26 山天大畜 さんてんたいちく



大畜、利貞。不家食吉。利涉大川。

だいちく

ただ

り

かしよく

きつ

たいせん

わた

大畜は貞しきに利あり。

家食せずして、吉なり。

大川を渉るに利あり。

り。

初九、有厲。利已。

しよきゆう

あやう

初九は、厲きことあり。已むに利あり。

や

り

九二、輿説輶。

きゆうじ

くるまといしはり

と

九二は、輿輶を説く。

九三、良馬逐。利艱貞。曰閑輿衛、利有攸往。

きゆうさん

りようば

お

かんでい

九三は、良馬逐えり。艱貞に利あり。曰に輿衛を閑えば、往く

ここ

よえい

なら

ゆ

ところあるに利あり。

六四、童牛之牯。元吉。

りくし

どうぎゆう

さえ

おお

きつ

六四は、童牛の牯。元いに吉なり。

六五、豮豕之牙。吉。

りくご

ふんし

きは

きつ

六五は、豮豕の牙。吉なり。

上九、何天之衢。亨。

じようきゆう

てん

お

みち

とお

上九は、天を何うの衢。亨る。



27 山雷頤 さんらい い



頤、貞吉。觀頤。自求口實。

頤は貞しければ吉。頤を觀る。自ら口実を求む。

初九、舍爾靈龜、觀我朵頤。凶。

初九は、爾の靈龜を捨てて、我を觀て頤を朶る。凶なり。

六二、顛頤、扚絰。于丘頤、征凶。

六二は、顛まに頤わる、絰に扚れり。丘に于て頤わる、征けば

凶なり。

六三、扚頤。貞凶。十年勿用。无攸利。

六三は、頤うに扚る。貞なれども凶なり。十年用うるなかれ。利す

るところなし。

六四、顛頤吉。虎視眈眈。其欲逐逐。无咎。

六四は、顛まに頤わるるも吉なり。虎視眈眈たり。その欲逐逐たり。

咎なし。

六五、扚絰。居貞吉。不可涉大川。

六五は、絰に扚れり。貞に居れば吉なり。大川を渉るべからず。

上九、由頤。厲吉。利涉大川。

上九は、由つて頤わる。厲くして吉、大川を渉るに利あり。



28 沢風大過 たくふうたいか



大過、棟撓。利有攸往。亨。

たいか

むねぎたわ

大過は、棟撓めり。

ゆ

往くところあるに利あり。

とお

亨る。

初六、藉用白茅。无咎。

しよりく

し

はくぼう

もつ

とが

初六は、藉くに白茅を用てす。咎なし。

九二、枯楊生稊。老夫得其女妻。无不利。

きゆうじ

こようひこばえ

しよう

ろうふ

じよさい

え

九二は、枯楊稊を生ず。老夫その女妻を得たり。利あらざるなし。

し。

九三、棟撓。凶。

きゆうさん

むねぎたわ

九三は、棟撓めり。凶なり。

きよう

九四、棟隆。吉。有它吝。

きゆうし

むねぎたか

きつ

だ

りん

九四は、棟隆し。吉なり。它あれば吝なり。

九五、枯楊生華。老婦得其士夫。无咎无誉。

きゆうご

こようはな

しよう

ろうふ

しふ

え

とが

ほま

九五は、枯楊華を生ず。老婦その士夫を得たり。咎もなく誉れもなし。

上六、過涉滅頂。凶。无咎。

じようりく

す

わた

いただ

つく

きよう

とが

上六は、過ぎて渉る、頂きを滅す。凶なり。咎なし。

29 坎為水



習坎、有孚。維心亨。行有尚。

習坎は孚あり。心を維げば亨る。行けば尚くることあり。

初六、習坎、入于坎窞。凶。

初六は、坎を習ねて、坎窞に入る。凶なり。

九二、坎有險。求小得。

九二は、坎に險あり。求めて小しく得たり。

六三、來之坎坎。險且枕〔沈〕。入于坎窞。勿用。

六三は、来るも之くも坎坎たり。險にして且つ沈し。坎窞に入る。用うるなかれ。

六四、樽酒簋、貳用缶。納約自牖。終无咎。

六四は、樽酒簋あり、貳すに缶を用てす。約を納るる牖よりす。終に咎なし。

九五、坎不盈。祇既平。无咎。

九五は、坎盈たず。既に平らかなるに祇る。咎なし。

上六、係用徽纆、写于叢棘。三歲不得。凶。

上六は、係るに徽纆を用てし、叢棘に写く。三歳まで得ず。凶なり。



30 離り為い火か



離、利貞。亨。畜牝牛、吉。

離りは貞ただしきに利りあり。亨とおる。牝牛ひんぎゆうを畜やしなう、吉きつなり。

初九、履錯然。敬之无咎。

初九しよきゆうは、履ふむこと錯然さくぜんたり。これを敬つつしむときは咎とがなし。

六二、黄離。元吉。

六二りくじは、黄離こうり。元おおいに吉きつなり。

九三、日昃之離。不鼓缶而歌、則大耋之嗟。凶。

九三きゆうさんは、日昃につそくの離りなり。缶ほとぎを鼓うちて歌うたわずば、大耋だいてつの嗟なげきあら

ん。凶きようなり。

九四、突如其来如。焚如。死如。棄如。

九四きゆうしは、突如とつじよそれ来如らいじよ。焚如はんじよ、死如しじよ、棄如きじよ。

六五、出涕沱若。戚嗟若。吉。

六五りくごは、涕なみだを出いだすこと沱若たじやくたり。戚うれいて嗟若さじやくたり。吉きつなり。

上九、王用出征。有嘉折首。獲匪其醜。无咎。

上九じようきゆうは、王用おうもつて出いでて征せいす。嘉よきことあり首かしらを折くじく。獲うること

その醜たぐいにあらず。咎とがなし。

31 沢山咸 たくざんかん



咸、亨。利貞。取女吉。

咸は亨る。貞しきに利あり。女を取るは吉なり。

初六、咸其拇。

初六は、その拇に咸す。

六二、咸其腓、凶。居吉。

六二は、その腓を咸す、凶なり。居れば吉なり。

九三、咸其股。執其隨。往吝。

九三は、その股に咸す。執ることそれ随う。往けば吝なり。

九四、貞吉悔亡。憧憧往來、朋從爾思。

九四は、貞しければ吉にして悔亡ぶ。憧憧として往來すれば、朋

爾の思いに従う。

九五、咸其脢。无悔。

九五は、その脢に咸す。悔なし。

上六、咸其輔頰舌。

上六は、その輔頰舌に咸す。



32 雷風恒



恒、亨。无咎。利貞。利有攸往。

恒は、亨る。咎なし。貞しきに利あり。往くところあるに利あり。

初六、浚恒。貞凶。无攸利。

初六は、浚く恒にす。貞しけれども凶なり。利するところなし。

九二、悔亡。

九二は、悔亡ぶ。

九三、不恒其德、或承之羞。貞吝。

九三は、その徳を恒にせざれば、或いはこれが羞を承く。貞しけれ

ど吝なり。

九四、田无禽。

九四は、田して禽なし。

六五、恒其德。貞。婦人吉。夫子凶。

六五は、その徳を恒にす。貞し。婦人は吉なり。夫子は凶なり。

上六、振恒。凶。

上六は、振くこと恒なり。凶なり。



33 天山遯 てんざん とん



遯、亨。小利貞。

とん とお 遯は亨る。 しようただ 小貞しきに利あり。

初六、遯尾、厲。勿用有攸往。

しよりく とん び あやう 初六は、遯尾、厲し。 もつ ゆ 用て往くところあるなかれ。

六二、執之用黄牛之革。莫之勝説。

りくじ とら こうぎゆう つくりかわ もつ 六二は、これを執うるに黄牛の革を用てす。これを説くに勝る な 莫し。

九三、係遯。有疾厲。畜臣妾吉。

きゆうさん けい とん やまい あやう しんしよう やしな きつ 九三は、係遯す。疾あり厲し。臣妾を畜うときは吉なり。

九四、好遯。君子吉。小人否。

きゆうし こう とん くんし きつ しょうじん 九四は、好遯す。君子は吉、小人はしからず。

九五、嘉遯。貞吉。

きゆうご か とん ただ きつ 九五は、嘉遯す。貞しければ吉なり。

上九、肥遯。无不利。

じようきゆう ひ とん 上九は、肥遯す。利あらざるなし。



34 雷天大壮 らいてんだいそう



大壮、利貞。

大壮は貞しきに利あり。

初九、壮于趾。征凶、有孚。

初九は、趾に壮んなり。征くときは凶、孚あり。

九二、貞吉。

九二は、貞しければ吉なり。

九三、小人用壮、君子用罔。貞厲。羝羊触藩、羸其角。

九三は、小人は壮を用い、君子は用うることを罔し。貞しけれど厲し。羝羊藩に触れて、その角を羸ましむ。

九四、貞吉悔亡。藩决不羸。壮于大輿之輹。

九四は、貞しければ吉にして悔亡ぶ。藩決けて羸しません。大輿の輹に壮んなり。

六五、喪羊于易。无悔。

六五は、羊を易に喪う。悔なし。

上六、羝羊触藩。不能退、不能遂。无攸利。艱則吉。

上六は、羝羊藩に触る。退く能わず、遂む能わず。利するところなし。艱しめば吉なり。



35 火地晋 かちしん



晋、康侯用錫馬蕃庶。晝日三接。

しん こうこうもつ うま たも はんしよ ちゆうじつ み まじ

晋は康侯用て馬を錫うこと蕃庶たり。昼日に三たび接わる。

初六、晋如摧如。贞吉。罔孚、裕无咎。

しよりく しんじよ さいじよ ただ きつ まこと な

初六は、晋如たり摧如たり。貞しければ吉なり。孚とせらるる罔き

も、裕ゆたかなるときは咎とがなし。

六二、晋如愁如。贞吉。受兹介福于其王母。

りくじ しんじよ しゆうじよ ただ こ おお ふく

六二は、晋如たり愁如たり。貞しければ吉なり。茲の介おおいなる福

をその王母おうぼに受く。

六三、衆允。悔亡。

りくさん しゆうまこと くいほろ

六三は、衆允とす。悔亡ぶ。

九四、晋如鼫鼠。贞厲。

きゆうし しんじよ せきそ ただ あやう

九四は、晋如たる鼫鼠。貞しけれど厲あやうし。

六五、悔亡。失得勿恤、往吉无不利。

りくご くいほろ しつとくうれ きつ

六五は、悔亡ぶ。失得恤しつとくうれうるなかれ、往ゆくときは吉きつにして利りあらざ

るなし。

上九、晋其角。维用伐邑。厲吉无咎。贞吝。

じようきゆう つの すす こ もつ ゆう う あやう きつ

上九は、その角に晋む。維れ用て邑を伐つ。厲あやうけれど吉きつにして

咎とがなし。貞ただしけれど吝りんなり。



36 地火明夷 ちかめいいい



明夷、利艱貞。

明夷は艱貞に利あり。

初九、明夷于飛、垂其翼。君子于行、三日不食。有攸往、主人有言。

初九は、明夷于き飛んで、その翼を垂る。君子于き行く、三日食わず。往くところあれば、主人言うことあり。

六二、明夷、夷于左股。用拯馬壯、吉。

六二は、明夷、左の股を夷る。用て拯う馬壯なれば、吉なり。

九三、明夷于南狩。得其大首。不可疾貞。

九三は、明夷、南に于きて狩し、その大首を得ん。疾く貞すべからず。

六四、入于左腹。獲明夷之心。于出門庭。

六四は、左の腹に入る。明夷の心を獲たり。于きて門庭を出ず。

六五、箕子之明夷。利貞。

六五は、箕子の明夷る。貞しきに利あり。

上六、不明晦。初登于天、後入于地。

上六は、不明にして晦し。初めは天に登り、後には地に入る。



37 風火家人 ふうかかじん



家人、利女貞。

家人は女の貞しきに利あり。

初九、閑有家。悔亡。

初九は、有家に閑ぐ。悔亡ぶ。

六二、无攸遂。在中饋、貞吉。

六二は、遂ぐるところなし。中饋に在るときは、貞しくして吉なり。

九三、家人嗃嗃。悔厲吉。婦子嘻嘻。終吝。

九三は、家人嗃嗃たり。厲しきに悔あれど吉なり。婦子嘻嘻たり。

終に吝なり。

六四、富家。大吉。

六四は、家を富ます。大いに吉なり。

九五、王假有家。勿恤吉。

九五は、王有家に仮る。恤うる勿くして吉なり。

上九、有孚威如。終吉。

上九は、孚あり威如たり。終に吉なり。





睽、小事吉。

睽は小事には吉なり。

初九、悔亡。喪馬勿逐。自復。見惡人无咎。

初九は、悔亡ぶ。馬を喪う逐う勿くして自から復る。惡人を見

れば咎なし。

九二、遇主于巷。无咎。

九二は、主に巷に遇う。咎なし。

六三、見輿曳。其牛掣。其人天且劓。无初有終。

六三は、輿を曳かる。その牛掣めらる。その人天せられ且つ劓ら

る。初めなくして終りあり。

九四、睽孤。遇元夫。交交孚。厲无咎。

九四は、睽いて孤なり。元夫に遇う。交交孚あり。厲けれど咎な

し。

六五、悔亡。厥宗噬膚。往何咎。

六五は、悔亡ぶ。その宗膚を噬む。往くとして何の咎かあらん。

上九、睽孤。見豕負塗。載鬼一車。先張之弧。後說之孤。匪寇婚媾。往遇雨則吉。

上九は、睽いて孤なり。豕の塗を負えるを見る。鬼を載する

こと一車。先にはこれが弧を張り、後にはこれが孤を説す。寇す

るにあらず婚媾せんとす。往いて雨に遇えば吉なり。



39 水山蹇 すいざんけん



蹇、利西南、不利東北。利見大人、貞吉。

けん せいなん

り

とうほく

り

蹇は西南に利あり、東北に利あらず。

たいじん

み

大人を見るに利あり、貞し

ただ

くして吉なり。きつ

初六、往蹇来誉。

しよくく

ゆ

なや

きた

ほま

初六は、往くときは蹇みあり来るときは誉れあり。

六二、王臣蹇蹇。匪躬之故。

りくじ

おうしんけんけん

み

こと

六二は、王臣蹇蹇たり。躬の故にあらず

九三、往蹇来反。

きゆうさん

ゆ

なや

きた

かえ

九三は、往くときは蹇みあり来るときは反る。

六四、往蹇来連。

りくし

ゆ

なや

きた

つら

六四は、往くときは蹇みあり来るときは連なる。

九五、大蹇朋来。

きゆうご

だいけんともきた

九五は、大蹇朋来る。

上六、往蹇来碩。吉。利見大人。

じようりく

ゆ

なや

きた

おお

上六は、往くときは蹇みあり来るときは碩いなり。

きつ

吉なり。

たいじん

大人を

見るに利あり。



40 雷水解



解、利西南。无所往、其来復吉。有攸往、夙吉。

解は、西南に利あり。往くところなければ、其れ来り復りて吉なり。往くところあれば、夙くして吉なり。

初六、无咎。

初六は、咎なし。

九二、田獲三狐、得黄矢。贞吉。

九二は、田して三狐を獲、黄矢を得ん。貞しければ吉なり。

六三、負且乘、致寇至。贞吝。

六三は、負い且つ乗る、寇の至るを致す。貞しくとも吝なり。

九四、解而拇、朋至斯孚。

九四は、而の拇を解く、朋至りて斯に孚あり。

六五、君子維有解、吉。有孚于小人。

六五は、君子維れ解くことあれば吉なり。小人に孚すことあり。

上六、公用射隼于高墉之上。獲之无不利。

上六は、公用て隼を高墉の上に射る。これを獲て、利あらざるなし。

41 山沢損 さんたくそん



損、有孚、元吉、无咎。可貞、利有攸往。曷之用。二簋可用亨。

損は孚あれば、元いに吉にして、咎なし。貞にすべくして、往くところあるに利あり。曷をかこれ用いん。二簋用て亨るべし。

初九、已事遄往。无咎。酌損之。

初九は、事を已めて遄かに往く。咎なし。酌みてこれを損す。

九二、利貞。征凶。弗損益之。

九二は、貞しきに利あり。征けば凶なり。損せずしてこれを益す。

六三、三人行則損一人。一人行則得其友。

六三は、三人行けば一人を損す。一人行けばその友を得ん。

六四、損其疾。使遄有喜。无咎。

六四は、その疾いを損す。使し遄かなれば喜びあり。咎なし。

六五、或益之。十朋之龜。弗克違。元吉。

六五は、或いはこれを益す。十朋の龜も違う克わず。元いに吉なり。

上九、弗損益之。无咎。貞吉、利有攸往。得臣无家。

上九は、損せずしてこれを益す。咎なし。貞しければ吉にして、往くところあるに利あり。臣を得るに家なし。

42 風雷益 ふうらいえき



益、利有攸往。利涉大川。

益は往くところあるに利あり。大川を渉るに利あり。

初九、利用為大作。元吉、无咎。

初九は、用て大作を為すに利あり。元吉にして、咎なし。

六二、或益之。十朋之龜。弗克違。永貞吉。王用亨于帝、吉。

六二は、或いはこれを益す。十朋の龜も違う克わず。永貞なれば吉なり。王用て帝に享す、吉なり。

六三、益之。用凶事无咎。有孚中行。告公用圭。

六三は、これに益す。凶事に用うるに咎なし。中行に孚あり。公に告ぐるに圭を用てす。

六四、中行、告公従。利用為依遷国。

六四は、中行あれば、公に告げて従われん。用て依ることを為し国を遷すに利あり。

九五、有孚惠心、勿問元吉。有孚惠我徳。

九五は、孚ありて恵心あれば、問うことなくして元いに吉なり。孚ありて我に徳を恵まん。

上九、莫益之。或擊之。立心勿恒。凶。

上九は、これに益すことなし。或いはこれを撃つ。心に立つること恒なし。凶なり。

43 沢天夫 たくてんかい



夫、揚于王庭。孚號有厲。告自邑。不利即戎。利有攸往。

夫は王庭に揚ぐ。孚ありて号ぶ、厲きことあり。告ぐること邑よりす。戎に即くに利あらず。往くところあるに利あり。

初九、壮于前趾。往不勝為咎。

初九は、趾を前むるに壮んなり。往いて勝たざるを咎となす。

九二、惕號。莫夜有戎、勿恤。

九二は、惕れて号ぶ。莫夜に戎あれども、恤うるなかれ。

九三、壮于頄。有凶。君子夫夫。独行遇雨。若濡有愠。无咎。

九三は、頄に壮んなり。凶あり。君子は夫夫。独り行きて雨に遇う。濡るるが若く愠らることあり。咎なし。

九四、臀无膚。其行次且。牽羊悔亡。聞言不信。

九四は、臀に膚なし。その行くこと次且たり。羊を牽けば悔亡ぶ。言を聞くとともに信ぜず。

九五、苋陸夬夬、中行无咎。

九五は、苋陸夬夬、中行にして咎なし。

上六、无號。終有凶。

上六は、号ぶことなし。終に凶あり。



44 天風姤 てんふうこう



姤、女壯。勿用取女。

姤は女壯じよなり。女めとを取るもちに用もちうるなかれ。

初六、繫于金柅。貞吉。有攸往、見凶。羸豕孚躅躅。

しよりく

きんじ

つな

ただ

きつ

ゆ

きよう

初六は、金柅きんじに繫ぐ。貞ただしくして吉きつなり。往ゆくところあれば、凶きようを

見る。羸豕み孚るいに躅躅しまことたり。

九二、包有魚。无咎。不利賓。

きゆうじ

つつ

うお

とが

ひん

り

九二は、包つつむに魚うおあり。咎とがなし。賓ひんに利りあらず。

九三、臀于膚。其行次且。厲无大咎。

きゆうさん

いざらい

はだえ

ゆ

ししよ

あやう

だい

九三は、臀いざらいに膚はだえなし。その行ゆくこと次且ししよたり。厲あやうけれど大だいなる

とが

咎なし。

九四、包无魚。起凶。

きゆうし

つつ

うお

た

きよう

九四は、包つつむに魚なし。起たてば凶きようなり。

九五、以杞包爪。含章。有隕自天。

きゆうご

き

もつ

か

つつ

しやう

ふく

てん

お

九五は、杞きを以もつて爪かを包つつむ。章しやうを含ふくむ。天てんより隕おつることあり。

上九、姤其角。吝无咎。

じやうきゆう

つの

あ

りん

とが

上九は、その角つのに姤あう。吝りんなれど、咎とがなし。



45 沢地萃 たくちすい



萃〔亨〕。王假有廟。利見大人。亨。利貞。用大牲吉。利有攸往。

萃は亨る。王有廟に仮る。大人を見るに利あり。亨る。貞しきに利あり。大牲を用うるに吉。往くところあるに利あり。

初六、有孚不終。乃乱乃萃。若號一握為笑。勿恤往无咎。

初六は、孚ありて終らず。乃ち乱れ乃ち萃まる。若し号べば、一握笑いと為らん。恤うるなかれ。往けば咎なし。

六二、引吉。无咎。孚乃利用禴。

六二は、引けば吉にして、咎なし。孚あつて乃ち禴に用うるに利あり。

六三、萃如嗟如。无攸利。往无咎。小吝。

六三は、萃如たり。嗟如たり。利するところなし。往いて咎なし。小し吝あり。

九四、大吉、无咎。

九四は、大いに吉にして、咎なし。

九五、萃有位。无咎。匪孚、元永貞、悔亡。

九五は、萃むるに位あり。咎なし。孚とするにあらざるときは、元永貞にして、悔亡ぶ。

上六、齋咨涕洟。无咎。

上六は、齋咨涕洟す。咎なし。





46 地風升 ちふうしょう



升、元亨。用見大人。勿恤。南征吉。

しょう おお とお もつ たいじん うれ なんせい きつ  
升は元いおに亨とる。用もて大人たいじんを見る。恤うれうるなかれ。南征なんせいして吉きつなり。

初六、允升。大吉。

しよく まこと のぼ おお きつ  
初六は、允まに升のる。大おいに吉きなり。

九二、孚乃利用禴。无咎。

きゆうじ まこと すなわ やく もち とが  
九二は、孚まあつて乃すなわち禴やくを用もちうるに利りあり。咎とがなし。

九三、升虚邑。

きゆうさん きよゆう のぼ  
九三は、虚邑きよゆうに升のる。

六四、王用亨于岐山。吉无咎。

りくし おうもつ きざん きよう きつ とが  
六四は、王用おうもつて岐山きざんに亨きようす。吉きつにして咎とがなし。

六五、贞吉。升階。

りくご ただ きつ きぎはし のぼ  
六五は、貞ただしければ吉きつなり。階きぎはしに升のる。

上六、冥升。利于不息之贞。

じようりく のぼ くら ふそく てい り  
上六は、冥のぼるに冥くらし。不息ふそくの貞ていに利りあり。



47 沢水困 たくすいこん



困、亨。貞。大人吉无咎。有言不信。

困は亨る。貞し。大人は吉にして咎なし。言うことあれど信ぜられず。

初六、臀困于株木。入于幽谷。三歳不覿。

初六は、臀株木に困しむ。幽谷に入る。三歳まで覿ず。

九二、困于酒食。朱紱方來。利用享祀。征凶。无咎。

九二は、酒食に困しむ。朱紱方に来る。用て享祀するに利あり。

征けば凶なり。咎なし。

六三、困于石。據于蒺藜。入于其宮、不見其妻。凶。

六三は、石に困しむ、蒺藜に拠る。その宮に入りて、その妻を

見ず。凶なり。

九四、來徐徐。困于金車。吝、有終。

九四は、來ること徐徐たり。金車に困しむ。吝なれど、終りあり。

九五、劓刖。困于赤紱。乃徐有說。利用祭祀。

九五は、劓られ刖たる。赤紱に困しむ。乃ち徐くにして説びあ

り。用て祭祀するに利あり。

上六、困于葛藟。于臲臲。曰動悔。有悔、征吉。

上六は、葛藟に臲臲に困しむ。曰に動けば悔ゆ。悔いることあれ

ば、征きて吉なり。



48 水風井 すいふうせい



井、改邑不改井。无喪无得。往來井井。汔至、亦未繙井、羸其瓶。凶。

井は邑を改めて井を改めず。喪うなく得るなし。往くも来るも

井を井とす。汔んど至らんとして、亦たいまだ井に繙せず、その

瓶を羸る。凶なり。

初六、井泥不食。旧井无禽。

初六は、井泥にして食われず。旧井禽たつなし。

九二、井谷射鮒。甕敝漏。

九二は、井谷鮒に射ぐ。甕敝れて漏る。

九三、井渫不食、为我心恻。可用汲。王明並受其福。

九三は、井渫くして食われず、我が心の恻みを為す。用て汲む

べし。王明あらば、並びにその福を受けん。

六四、井甃。无咎。

六四は、井甃まる。咎なし。

九五、井冽寒泉食。

九五は、井冽よくして、寒泉食わる。

上六、井収勿幕。有孚元吉。

上六は、井収つて幕うことなし。孚あれば元いに吉なり。

49 沢火革 たくかかく



革、巳日乃孚。元亨利貞。悔亡。

かく きじつ すなわ まこと おお とお ただ り かいほろ  
革は巳日にして乃ち孚あり。元いに亨る貞しきに利あり。悔亡ぶ。

初九、鞶用黄牛之革。

しよきゆう かた こうぎゆう つくりかわ もつ  
初九は、鞶むるに黄牛の革を用てす。

六二、巳日乃革之。征吉、无咎。

りくじ きじつ すなわ あらた ゆ きつ とが  
六二は、巳日にして乃ちこれを革む。征いて吉、咎なし。

九三、征凶。貞厲。革言三就、有孚。

きゆうさん ゆ きよう ただ あやう かく ことみ な  
九三は、征けば凶なり。貞しけれど厲し。革の言三たび就りて、

孚あり。

九四、悔亡。有孚改命、吉。

きゆうし かいほろ まこと めい あらた きつ  
九四は、悔亡ぶ。孚ありて命を改むれば、吉なり。

九五、大人虎変。未占有孚。

きゆうご たいじんとら へん うらな まこと  
九五は、大人虎のごとく変ず。いまだ占わずして孚あり。

上六、君子豹変。小人革面。征凶、居貞吉。

じようりく くんし ひよう へん しようじん めん あらた ゆ きよう  
上六は、君子は豹のごとく変ず。小人は面を革む。征けば凶、  
居れば貞しくして吉なり。



50 火風鼎



鼎。元〔吉〕亨。

鼎は元いに吉にして亨る。

初六、鼎顛趾。利出否。得妾以其子。无咎。

初六は、鼎趾を顛しまにす。否を出だすに利あり。妾を得てその

子に以ぶ。咎なし。

九二、鼎有実。我仇有疾、不我能即。吉。

九二は、鼎に実あり。我が仇疾いあり、我に即く能わず。吉なり。

九三、鼎耳革。其行塞。雉膏不食。方雨虧悔。終吉。

九三は、鼎の耳革まる。その行塞がる。雉の膏あれども食われず。方に雨ふらんとして悔を虧く。終に吉なり。

九四、鼎折足。覆公餗。其形渥。凶。

九四は、鼎足を折る。公の餗を覆す。その形渥たり。凶なり。

六五、鼎黄耳金鉉。利貞。

六五は、鼎黄耳あり金鉉あり。貞しきに利あり。

上九、鼎玉鉉。大吉。无不利。

上九は、鼎玉鉉あり。大いに吉なり。利あらざるなし。

51 震為雷



震、亨。震來虩虩。笑言哑哑。震驚百里。不喪匕鬯。

しん とお しん きた げきげき しようげんあくあく しん ひやくり おどろ

震は亨る。震の来るときに虩々たり。笑言哑々たり。震は百里を驚

ひちよう うしな

かす。匕鬯を喪わず。

初九、震來虩虩。後笑言哑哑。吉。

しよきゆう しん きた げきげき のち しようげんあくあく きつ

初九は、震の来るときに虩虩たり。後に笑言哑哑たり。吉なり。

六二、震來厲。億喪貝、躋于九陵。勿逐七日得。

りくじ しんきた あやう おお たから うしな きゆうりよう のぼ

六二は、震来る厲し。億いに貝を喪つて、九陵に躋る。逐うな

ななか え

かれ七日にして得ん。

六三、震蘇蘇。震行无咎。

りくさん ふる そそ ふる ゆ わざわい

六三は、震いて蘇蘇たり。震いて行くときは咎なし。

九四、震遂泥。

きゆうし ふる つい なず

九四は、震いて遂に泥む。

六五、震往來厲。億无喪有事。

りくご ふる ゆ きた あやう おお ゆうじ うしな

六五は、震いて往くも来るも厲し。億いに有事を喪うことなし。

上六、震索索。視矍矍。征凶。震不于其躬、于其隣、无咎。婚媾有言。

じようりく ふる さくさく み かくかく ゆ きよう ふる

上六は、震いて索索たり。視ること矍矍たり。征けば凶なり。震

うことその躬に于てせず、その隣りに于てするときは、咎なし。婚媾

言うことあり。

もろこ



52 艮為山



艮其背、不獲其身。行其庭、不見其人。无咎。

其の背に艮まりて、其の身を獲ず。其の庭に行きて、其の人を見ず。咎なし。

初六、艮其趾。无咎。利永貞。

初六は、其の趾に艮まる。咎なし。永貞に利あり。

六二、艮其腓。不拯其隨。其心不快。

六二は、其の腓に艮まる。拯わずして其れ隨う。其の心快ならず。

九三、艮其限。列其夤。厲薰心。

九三は、其の限に艮まる。其の夤を列く。厲きこと心を薰ぶ。

六四、艮其身。无咎。

六四は、其の身に艮まる。咎なし。

六五、艮其輔。言有序。悔亡。

六五は、其の輔に艮まる。言序あり。悔亡ぶ。

上九、敦艮。吉。

上九は、艮まるに敦し。吉なり。



53 風山漸 ふうざんぜん



漸、女歸吉。利貞。

漸は女の歸ぐに吉なり。貞しきに利あり。

初六、鴻漸于干。小子厲。有言、无咎。

初六は、鴻 干に漸む。小子厲し。言うことあれど、咎なし。

六二、鴻漸于磐。飲食衎衎。吉。

六二は、鴻 磐に漸む。飲食衎衎たり。吉なり。

九三、鴻漸于陸。夫征不復。婦孕不育。凶。利禦寇。

九三は、鴻 陸に漸む。夫征きて復らず。婦孕んで育われず。凶

なり。寇を禦ぐに利あり。

六四、鴻漸于木。或得其桷。无咎。

六四は、鴻 木に漸む。或いは其の桷を得ん。咎なし。

九五、鴻漸于陵。婦三歲不孕。終莫之勝。吉。

九五は、鴻 陵に漸む。婦三歳まで孕まず。終にこれに勝つことな

し。吉なり。

上九、鴻漸于陸。其羽可用為儀。吉。

上九は、鴻 達に漸む。其の羽用て儀となすべし。吉なり。





54 雷沢帰妹 らいたくきまい



帰妹、征凶。无攸利。

帰妹は征けば凶なり。利するところなし。

初九、帰妹以娣。跛能履。征吉。

初九は、帰妹娣を以てす。跛にして履む。征くときは吉なり。

九二、眇能視。利幽人之貞。

九二は、眇にして視る。幽人の貞に利あり。

六三、帰妹以須。反帰以娣。

六三は、帰妹以て須つ。反り歸りて娣を以てす。

九四、帰妹愆期。遲歸有時。

九四は、帰妹期に愆す。遅く歸ぐに時あらん。

六五、帝乙歸妹。其君之袂、不知其娣之袂良。月幾望。吉。

六五は、帝乙妹を歸がしむ。其の君の袂は、其の娣の袂の良きに如かず。月望に幾し。吉なり。

上六、女承筐无実。士刲羊无血。无攸利。

上六は、女筐を承ぐるに実なし。士羊を刲くに血なし。利するところなし。

55 雷火豊らいかほう



豊、亨。王假之。勿憂、宜日中。

豊は亨る。王これに仮る。憂うるなかれ、日中に宜し。

初九、遇其配主。雖旬无咎。往有尚。

初九は、其の配主に遇う。旬といえども咎なし。往けば尚ぶことあり。

あり。

六二、豊其蔀。日中見斗。往得疑疾。有孚発若、吉。

六二は、其の蔀を豊いにす。日中に斗を見る。往けば疑疾を得

ん。孚ありて発若たれば、吉なり。

九三、豊其沛。日中見沫。折其右肱。无咎。

九三は、其の沛を豊いにす。日中に沫を見る。其の右の肱を折

る。咎なし。

九四、豊其蔀。日中見斗。遇其夷主、吉。

九四は、其の蔀を豊いにす。日中に斗を見る。其の夷主に遇え

ば、吉なり。

六五、來章、有慶誉、吉。

六五は、章を來せば、慶誉あつて、吉なり。

上六、豊其屋。蔀其家。闕其戸、闕其无人。三歳不覲。凶。

上六は、其の屋を豊いにす。其の家に蔀す。其の戸を闕うに、闕として其れ人なし。三歳まで覲ず。凶なり。



56 火山旅 かざんりよ



旅、小亨。旅貞吉。

旅は小し亨る。旅の貞あれば吉なり。

初六、旅瑣瑣。斯其所取災。

初六は、旅のとき瑣瑣たり。斯れその災いを取るところなり。

六二、旅即次。懷其資。得童僕貞。

六二は、旅のとき次に即く。其の資を懐く。童僕どうぼくの貞を得たり。

り。

九三、旅焚其次。喪其童僕。貞厲。

九三は、旅のとき其の次りを焚く。其の童僕どうぼくを喪う。貞しければ

ど厲し。

九四、旅于処。得其資斧。我心不快。

九四は、旅のとき于に処る。其の資斧しふを得たり。我が心快から

ず。

六五、射雉一矢亡。終以誉命。

六五は、雉きじを射て一矢亡う。終に以て誉命あり。

上九、鳥焚其巢。旅人先笑後號咷。喪牛于易。凶。

上九は、鳥とりその巢すを焚く。旅人先に笑い後には号さけび咷よばう。牛うし

を易に喪う。凶なり。

57 巽為風



巽、小亨。利有攸往。利見大人。

巽は小し亨る。往くところあるに利あり。大人を見るに利あり。

初六、進退。利武人之貞。

初六は、進み退く。武人の貞に利あり。

九二、巽在牀下。用史巫紛若、吉无咎。

九二は、巽つて牀下<sup>とが</sup>にあり。史巫を用うること紛若たれば、吉にして咎なし。

九三、頻巽。吝。

九三は、頻りに巽う。吝なり。

六四、悔亡。田獲三品。

六四は、悔亡ぶ。田して三品を獲たり。

九五、貞吉悔亡。无不利。无初有終。先庚三日、後庚三日。吉。

九五は、貞しければ吉にして悔亡ぶ。利あらざるなし。初めなくして終わりあり。庚に先だつこと三日、庚に後るること三日。吉なり。

上九、巽在牀下。喪其資斧。貞凶。

上九は、巽つて牀下<sup>そ</sup>にあり。其の資斧を喪う。貞に凶なり。

58 兌為沢



兌、亨。利貞。

兌は亨る。貞しきに利あり。

初九、和兌。吉。

初九は、和して兌ぶ。吉なり。

九二、孚兌。吉、悔亡。

九二は、孚もて兌ぶ。吉にして、悔亡ぶ。

六三、來兌。凶。

六三は、来りて兌ぶ。凶なり。

九四、商兌。未寧。介疾有喜。

九四は、商つて兌ぶ。いまだ寧からず。介疾あれども喜びあり。

九五、孚于剥。有厲。

九五は、剥に孚あれば、厲きことあり。

上六、引兌。

上六は、引いて兌ぶ。

59 風水換



換、亨。王假有廟。利涉大川。利貞。

換は亨る。王有廟に仮る。大川を渉るに利あり。貞しきに利あり。

初六。用拯馬壯、吉。

初六は、用て拯う馬壯んなれば、吉。

九二、渙奔其机。悔亡。

九二は、渙のとき其の机に奔る。悔亡ぶ。

六三、渙其躬。无悔。

六三は、其の躬を渙す。悔なし。

六四、渙其群。元吉。渙有丘、匪夷所思。

六四は、其の群を渙す。元いに吉なり。渙して丘あり、夷の思う所にあらず。

九五、渙汗其大號。渙王居、无咎。

九五は、渙のとき其の大號を汗のごとくにす。王居を渙すれば、咎なし。

上九、渙其血。去逖出。无咎。

上九は、其の血を渙す。去りて逖く出ず。咎なし。

60 水沢節 すいたくせつ



節、亨。苦節不可貞。

節は亨る。節に苦しみて貞しとす可からず。

初九、不出戸庭。无咎。

初九は、戸庭を出でず。咎なし。

九二、不出門庭。凶。

九二は、門庭を出でず。凶なり。

六三、不節若則嗟若。无咎。

六三は、節若たらざれば嗟若たり。咎むることなし。

六四、安節。亨。

六四は、安節す。亨る。

九五、甘節。吉。往有尚。

九五は、甘節す。吉なり。往けば尚ばるることあり。

上六、苦節。貞凶。悔亡。

上六は、苦節す。貞なるときは凶なり。悔ゆるときは亡ぶ。

61 風沢中孚



中孚、豚魚吉。利涉大川。利貞。

ちゆうふう とんぎよ

きつ

たいせん

わた

り

ただ

り

中孚は豚魚にして吉なり。大川を渉るに利あり。貞しきに利あり。

初九、虞吉。有他不燕。

しよきゆう

はか

きつ

た

やす

初九は、虞れば吉なり。他あれば燕からず。

九二、鳴鶴在陰。其子和之。我有好爵。吾與爾靡之。

きゆうじ

めいかくいん

あ

そ

こ

わ

われ

こうしやく

われ

九二は、鳴鶴陰に在り。其の子これに和す。我に好爵あり。吾

爾とこれを靡にせん。

なんじ

とせ

六三、得敵。或鼓或罷、或泣或歌。

りくさん

てき

え

ある

こ

ある

や

ある

な

ある

六三は、敵を得たり。或いは鼓し或いは罷め、或いは泣き或い

は歌う。

うた

六四、月幾望。馬匹亡。无咎。

りくし

つき

ぼう

ちか

うま

たぐいうしな

とが

六四は、月望に幾し。馬の匹亡う。咎なし。

九五、有孚攀如。无咎。

きゆうご

まこと

れんじよ

とが

九五は、孚あり攀如たり。咎なし。

上九、翰音登于天。貞凶。

じようきゆう

かんおん

てん

ただ

きよう

上九は、翰音 天に登る。貞しけれど凶なり。





62 雷山小過



小過、亨。利貞。可小事不可大事。飛鳥遺之音。不宜上宜下。大吉。

小過は亨る。貞しきに利あり。小事に可なるも大事に可ならず。

飛鳥これが音を遺す。上るに宜しからず下るに宜し。大いに吉なり。

初六、飛鳥以凶。

初六は、飛鳥以て凶なり。

六二、過其祖、遇其妣。不及其君、遇其臣。无咎。

六二は、其の祖を過ぎて、其の妣に遇う。其の君に及ばず、其の臣に遇う。咎なし。

九三、弗過防之。從或戕之。凶。

九三は、過ぎずしてこれを防ぐ。従つて或いはこれを戕う。凶なり。

九四、无咎。弗過遇之。往厲必戒。勿用永貞。

九四は、咎なし。過ぎずしてこれに遇う。往けば厲し必ず戒めよ。永貞にして用うるなかれ。

六五、密雲不雨。自我西郊。公戈取彼在穴。

六五は、密雲あれど雨ふらず。我が西郊よりす。公を戈して彼の穴に在るを取る。

上六、弗遇過之。飛鳥離之。之謂災眚。

上六は、遇わずこれを過ぐ。飛鳥これが凶に離る。これを災眚と謂う。

63 水火既濟 すいかきせい



既済、〔小〕亨。〔小〕利貞。初吉終乱。

既済は小し亨る。貞しきに利あり。初めは吉にして終りには乱る。

初九、曳其輪、濡其尾。无咎。

初九は、その輪を曳く。その尾を濡らす。咎なし。

六二、婦喪其茀。勿逐、七日得。

六二は、婦その茀を喪う。逐うなかれ七日にして得ん。

九三、高宗伐鬼方。三年克之。小人勿用。

九三は、高宗鬼方を伐つ。三年にしてこれに克つ。小人は用うるなかれ。

六四、繻有衣袽。終日戒。

六四は、繻るに衣袽あり。終日戒む。

九五、東隣殺牛、不如西隣之禴祭。実受其福。

九五は、東隣の牛を殺すは、西隣の禴祭に如かず。実に其の福を受く。

上六、濡其首。厲。

上六は、其の首を濡らす。厲し。

64 火水未濟 かすいびせい



未濟、亨。小狐汔濟。濡其尾。无攸利。

未濟は亨る。小狐汔んど濟る。其の尾を濡らす。利するところなし。

初六、濡其尾。吝。

初六は、其の尾を濡らす。吝なり。

九二、曳其輪、貞吉。

九二は、其の輪を曳く、貞しくして吉なり。

六三、未濟。征凶。利涉大川。

六三は、未だ濟らず。征けば凶なり。大川を渉るに利あり。

九四、貞吉、悔亡。震用伐鬼方。三年有賞于大国。

九四は、貞しければ吉にして、悔亡ぶ。震きて用て鬼方を伐つ。

三年にして大国を賞せらるることあり。

六五、貞吉。无悔。君子之光。有孚、吉。

六五は、貞しくして吉なり。悔なし。君子の光あり。孚ありて吉なり。

上九、有孚于飲酒。无咎。濡其首、有孚失是。

上九は、飲酒に孚あり。咎なし。其の首を濡らすときは、孚あれども是に失う。

